



らいこういん 来迎院

基本データ 住所：常陸太田市大里町 3708（剛烈富永酒造店付近）

公開時間	駐車場	写真撮影	スタンプ	トイレ	雨天時の 展示物変更
15 時 30 分まで	○	○	○	○	なし

※ 一部の文化財は、普段は公開していません。

解説動画 ※通信料がかかります

【文化財解説（来迎院）】いろいろありました…なお寺の歴史と文化財をご紹介します！

【文化財解説（如来形坐像）】当時の姿を取り戻した美しき仏像をご紹介します！



来迎院



如来形

来迎院の来歴

大里町北部にある天台宗の寺院で、正式な名前は「^{こうみょうさんあんようじ}光明山安養寺来迎院」といいます。来迎院の建っている場所には、もともと真言宗「貴富山阿弥陀院安楽寺」という寺院（創建年代は不明）がありましたが、当時の住職が仏教の規律を破って追放され、廃れてしまったために、磯浜村（現在の大洗町磯浜町）にあった、天台宗「普賢院」という寺院を天和3年（1683）にこの地に移し、その後元禄5年（1692）に改号されて現在の来迎院となりました。

現在は住職の住んでいない無住寺となっていますが、数多くの貴重な文化財が残されています。

来迎院の文化財

- ^{あみだどうほんどう}阿弥陀堂本堂 県指定文化財（昭和 44 年 3 月 20 日指定）

江戸時代中期の享保3年（1718）に建てられた、1面が3間（一間＝1.82m…5.46m）幅の堂宇造（正方形の平面形をした造りの建物）のお堂で、高い茅葺屋根の頂には金銅製の宝珠^{ほうじゅ}が露盤^{ろばん}に据えられています。堂の内部には1間の幅で設けられた柱で区切った内陣^{ないじん}をつくり、中央に本尊を安置するための宮殿^{くうでん}が置かれています。県内の近世阿弥陀堂建築を知る上で貴重な実例といえます。



阿弥陀堂本堂

○ あみだ どうろうもん 阿弥陀堂楼門 県指定文化財(昭和 44 年 3 月 20 日指定)

正面 3 間 (5.46m) 横 2 間 (3.64m) 1 戸 (出入口は 1 か所という意味) の規模で、楼郭となる高い 2 階部分を持つ、入母屋造茅葺屋根の建物です。

門の両袖に仁王像を納めるところから、仁王門とも呼ばれています。本堂より少し遅れて、宝暦 10 年 (1760) に建てられました。造られた年代が少し異なるものの、建築様式は阿弥陀堂本堂と類似しています。



阿弥陀堂楼門

○ もくぞう あみだによらいざぞう 木造阿弥陀如来坐像 県指定文化財 (昭和 40 年 2 月 24 日指定)

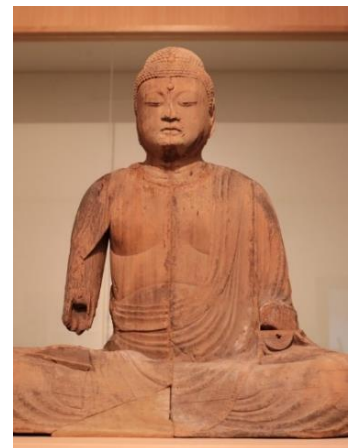
高さ約 155.6cm (半丈六と呼ばれるサイズ)、ケヤキ材の一木造で、本尊の表面にわずかに金箔がみられることから、製作当時は表面が金箔で仕上げられていたと思われます。細かく表現された螺髪^{らほつ}(=髪の毛)や彫眼(彫りだけで表現された眼)などから、平安時代末の作と考えられ、阿弥陀如来特有の印相(=手の表現)のひとつ、上品上生の印を結んでいます。台座天板裏には、寛文年間(1661~1673)に本像の修復を行った墨書があり、後補のヒノキ材の部分は、その際のもものと推定されます。この阿弥陀如来坐像は元々、普賢院の本尊として磯浜村から運ばれてきたと伝えられます。



木造阿弥陀如来坐像

○ もくぞうによらいざぞう 木造如来形坐像 市指定文化財 (平成 24 年 1 月 27 日指定)

高さ 85.9cm の仏像で、低い肉髻(頭の上の一段高くなっている部分)や細かい螺髪(髪の毛)の表現などに定朝様の特徴があり、平安時代末の作と考えられています。寄木造りのはぎ目が外れてバラバラになっていましたが、令和 2 年度に修復され、元の美しい姿を取り戻すことができました。手の部分がなくなっていますが、脚の組み方などから、阿弥陀如来である可能性が高いことがわかっています。



木造如来形坐像

○ だいはんにやきょう だいはんにやはらみったきょう 大般若経 (大般若波羅蜜多經)

大般若経は天台宗や真言宗の寺院でよく使われる、仏教の基礎的な教えが書かれている經典で、全 600 巻で構成されます。来迎院にはこのうち 430 巻以上が残されています。南北朝時代の永徳 4 年(1384)から、戦国時代末期の慶長 6 年(1601)の間に、さまざまな人たちからの寄進によって書き写されたもので、元々は那珂市菅谷の延命院のものであったとされています。中世の大般若経で、これだけの巻数が残っているものは茨城県内でも珍しく、文化財的な価値が非常に高いものです。

○ 阿弥陀堂本堂 奉納絵馬群

来迎院は昭和 30 年代前半にかけて、多くの参詣者でにぎわいました。

さまざまな願をかけ、大願が成就した参詣者が、大願成就した際のお礼として奉納した数十点の絵馬が遺されています。

これらの絵馬の中には宇佐美大奇・田所静山など、地元の絵師の筆によるものもみられます。

奉納絵馬 1

「武者絵（源頼政鶴退治）」宇佐美太奇 筆

宇佐美 太奇（うさみ たいき）

寛政 6 年（1794）～明治 5 年（1872）

太田東町中の人。はじめ北宋画を学び、後に四条派入門を皮切りに各派を習得、一派をなしました。山水花鳥・人物いずれも得意とし、太田近在に多数の門人がありました。墓は塙町浄光寺境内にあります。



奉納絵馬 2

「草花図」田所静山？ 筆

田所 静山（たどころ せいざん）

天保 3 年（1832）～明治 2 年（1869）

太田の人。名は秀次郎といい、宇佐美大奇の門人であった田所静年の子です。父に師事し、山水を得意としました。37 歳で没しており、太田近在に屏風等の作品が遺されています。



奉納絵馬 4

「草花図」作者不詳（裏面は山水図）

櫛形村大字友部（現日立市十王町友部）の方が奉納したと考えられ、遠方からも参詣者が訪れていたことを物語る資料です。



奉納絵馬 6

「加藤清正図」作者不詳



来迎院所蔵文化財 ※一部公開していない文化財も含まれています

No.	種別	文化財名称	時代	備考
1	建造物	阿弥陀堂本堂	江戸中期	県指定
2	建造物	阿弥陀堂楼門	江戸中期	県指定
3	彫刻	木造阿弥陀如来坐像	平安時代末期	県指定
4	彫刻	木造如来形坐像	平安時代末期	市指定
5	彫刻	小仏頭	平安時代	本尊胎内仏
6	彫刻	木造仁王像 2 軀（楼門内）	江戸時代	
7	彫刻	不動明王立像	江戸時代	
8	彫刻	大日如来坐像	江戸時代	
9	彫刻	如来立像	江戸時代	
10	書跡	大般若経（434 卷）	南北朝時代～戦国時代末期	
11	絵画	奉納絵馬 1 武者絵（源頼政鶴退治図）	天保 9 年	
12	絵画	奉納絵馬 2 草花図（菊花）	明治 2 年	
13	絵画	奉納絵馬 3 武者絵	明治 5 年	
14	絵画	奉納絵馬 4 草花図・山水図（両面）	明治 28 年	
15	絵画	奉納絵馬 5 花鳥図（牡丹に孔雀）	近代カ	
16	絵画	奉納絵馬 6 武者絵（加藤清正図）	明治時代	
17	絵画	奉納絵馬 7 武者絵（神宮皇后図）	明治 20 年	
18	絵画	奉納絵馬 8 武者絵（牛若丸と烏天狗図）	明治 17 年	
19	絵画	奉納絵馬 9 武者絵（騎馬武者図）	明治～大正	
20	絵画	奉納絵馬 10 武者絵（神宮皇后図）	近世カ	
21	絵画	奉納絵馬 11 縁起絵（夫婦岩図）	近代カ	
22	絵画	奉納絵馬 12 曳駒図カ	近世カ	
23	絵画	奉納絵馬 13 武者絵（関羽図）	近代カ	
24	絵画	奉納絵馬 14 縁起絵（翁図）	近代カ	
25	絵画	奉納絵馬 15 武者絵	近代カ	
26	工芸品	奉納扁額 1 「阿弥陀如来尊」	大正 14 年	
27	史料	奉納扁額 2 「米寿」	明治 28 年	
28	史料	奉納扁額 3 和歌カ（扇面形）	不明	
29	史料	奉納連歌額（尾花庵）		
30	工芸品	御籤版木	江戸時代	
31	工芸品	御札版木	江戸時代	
32	工芸品	護摩壇	江戸時代	

集中曝涼 アンケートにご協力ください
 こちらから回答可能です→
 〔各公開場所の受付でも配布しています〕

